

自然と文化 案内帖 | No. 001

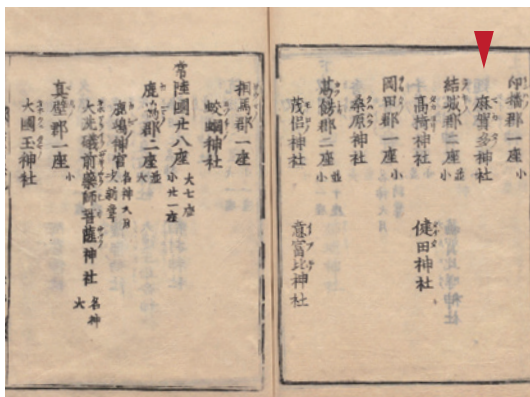
発行 | 千葉県立中央博物館 2024 年 12 月 10 日

ま か た
麻賀多神社 【文化編】

麻賀多神社は、千葉県にある式内社の一つである。
祭神は稚産霊命。式内社とは、平安時代中頃に作られた官僚業務マニュアル『延喜式』のうち、巻9・10の「神名帳」(神社リスト)に記載される神社を指す。千葉県北西部には同じ名称の神社が18社あり、当社はその惣社（いくつかの神社の祭神を一ヶ所にまとめて祭る神社）である。

本殿は寛文13年(1673)に建立された一間社の流造りであり、成田市指定文化財となっている。構造柱の組物・木鼻、高欄の擬宝珠などには建立時の技法の特色が残り、神社建築らしい簡素な構造美と評価される。

同社境内は「麻賀多神社の森」として県の天然記念物に指定されるほか、郷土環境保全地域にも登録されている。同地域は、特色ある史跡・建造物などと、地域に親しまれてきた由緒ある自然が一体となった区域を指す。実際、境内では自然林と人工林が良好に保たれており、とりわけ神木のスギ「大杉」は樹齢1300年、胸高直径が約3.2m、高さ40m以上で、県内2番目の巨木である。



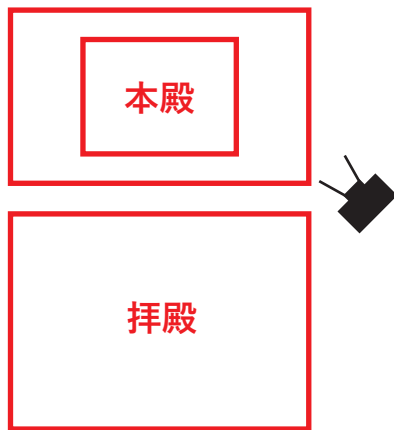
『延喜式』巻9・神名帳（国立公文書館蔵）



木々に覆われた境内



神木の「大杉」



② 千木・鯉木

屋根の大棟にあるX形の飾り（千木）と、中心が太い円柱（鯉木）。古代から高貴な建築の象徴として屋根にほどこされた。



③ 化粧垂木

寺社は豪華な二段が通例で二軒と呼ばれる。俗人の建物は、城の天守でさえも一軒とされた。

【麻賀多神社本殿】



① 一間社・流造り

神社本殿の規模は正面の柱と柱の間の数で表す。柱間が一つだけの本殿を一間社という。流造りは正面の屋根を庇に向けて長く伸ばした形式。



④ 組物

柱の上に置かれる装飾・構造部材。斗と肘木により複雑な木組が作られる。釘は使われない。



⑤ 臺股

組物と組物の間に置かれる飾り。当社では方角を表す干支が彫刻される。写真は南の午（うま）。



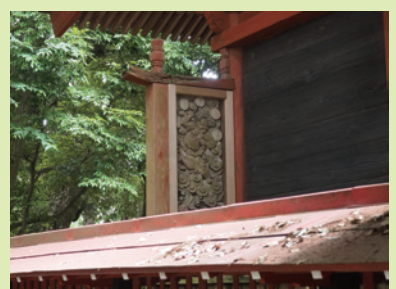
⑥ 木鼻

柱上部の横木先端に彫刻された装飾。当社では正面に獅子、側面に象が彫刻・彩色されている。



⑦ 手挟

軒裏に沿ってつけられた装飾彫刻。垂木と組物との間に隙間がなくなり、納まりがよくなる。



⑧ 脇障子

本殿の後ろに廻縁（縁側）がないことを隠す板壁の意匠。左右に風神と雷神が彫刻されている。